

令和8年度版 横浜市立小田中学校 グランドデザイン

2026年度 重点目標

「粘り強くしなやかに自分らしく生きる力の育成」

本校の教育活動の根拠(よりどころ)

横浜の教育が目指す人づくり 「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」

○教育法規及び学習指導要領○横浜市教育ビジョン2030

○第5期横浜市教育振興基本計画○横浜市立学校カリキュラムマネジメント要領

豊かな心を育む

- 他者との関りや社会の一員であることを実感しながら自分を見つめ、自尊感情を高められるよう、多様な体験活動を推進します。
- 人権意識の醸成、相手の立場になって行動できる豊かな人間性の育成に努めます。

健やかな体

- バランスの良い食事や正しい食習慣を実現するように、食に関する教育に取り組みます。
- 子どもに寄り添い、相談できる居場所をつくり、保護者と連携して個に応じた支援をします。
- 学校保健委員会を通して健全な心身の育成を図ります。

資質能力の育成

互いを認め合い、伝えあって自分の考えを深め、進化させる力、見通しをもって行動する力

自分らしさの発揮・思いやりの心を持ち、思いや考えを表現する・考えを出し合い提案する力・課題を発見し対応する力・批判的な質問や疑問を抱く力・多面的、総合的に考える力、健全な成長と自分を見つめる力

○教育課程の編成(何を学ぶか)

- ・教育活動全体を通じて「聴く、考える、確かめる、つなげる、深める」ことの推進、多面的総合的に考える力の育成
- ・「未来づくり科」を通し小中学校で一貫した資質能力「社会や自分の未来を想像する力」の育成

○学校教育の基本(何ができるようになるか)

- ・多様な考え方を受け入れ、協働的に学び、見方考え方を深めて自分の考えをよりよくすることができる

○教育課程の実施(どのように学ぶか)

- ・問題を発見し、解決する
- ・協働的な活動を通して自分の考えをもち、他者の考えを聞き、見方考え方を広げ、深める
- ・学びのプランによる「単元を通して身につけたい力」の明確化、自主学習の習慣づけ

○学習評価と学習指導の改善(何が身についたか)

- ・自分の考えをもち、学び合うことを通して、粘り強く考えを広げたり深めたりしている

○実施するために何が必要か(指導体制の充実、個に応じた支援、家庭・地域との連携・協働)

- ・校内研修を充実させ、授業力・生徒理解・学級経営力向上に努め、教員としての専門性を高めること
- ・子どもを第一に考えた視点を持ち、学校と家庭で協力・連携して、共に子どもの成長を図ること
- ・前後期に取組を振り返り PDCA による 改善を通じた組織の活性化と「チーム小田」で取り組み、指導をすること
- ・生徒理解カンファレンス会議といじめ対策防止委員会の定期的な会議の実施、組織的な「いじめ防止対策」を図ること
- ・小中併設型学校の特性を生かした児童・生徒の交流、教員による小中職会・授業研究会・人権研修会を実施すること
- ・教育相談アンケートの実施と丁寧な対応、生徒と向き合う時間を大切に、SC・SSW や関係機関と連携した支援、相談活動を充実させること
- ・生徒会活動を中心にした「子どもが主体」となる取り組みを支援し、「自己有用感」「連帯意識」「意欲」を高める
- ・「未来づくり科」を柱に ESD 教育を推進した考え方をホールスクールし「持続可能な社会に貢献する力」の育成を図る

○安心安全な学校づくり

- ・子どもに寄り添い傾聴することを基本に、相談しやすい居場所作りと生徒一人ひとりに応じた支援
- ・特別支援教育の視点を取り入れた授業の工夫と必要に応じた取り出し授業や校内ハートフルを利用した不登校支援
- ・自分の命は自分で守ることの意識を高める教育(安全教育、防災教育、情報モラル)を図る

○地域との連携・協働

- ・小中合同学校運営協議会により地域の思いや願いを反映させた開かれた学校運営の充実を図る
- ・KCS(小田小中地域コラボレーションシステム)によるボランティア活動の推進、地域の財の活用で地域と協働して子どもの成長を図る
- ・地域に参画意識をもち、ボランティア活動や地域貢献につながる取組を推進する